

巻頭言

補償光学とブラックホール.....高見英樹

総合報告

時空間光波シンセシスによる擾乱環境下での
イメージング.....的場 修ほか

解説

弱値イメージング—量子測定理論の応用事例の探索—
.....鹿野 豊ほか

量子ミメティック強度干渉イメージングとその
耐擾乱性.....白井智宏

散乱コンピュータシヨナルイメージング.....堀崎遼一
フォーカス

散乱媒質内での光の伝搬の超高速動画イメージング
.....井上智好ほか

光学ハイライト

人生の財産、博士号—博士課程進学のおすすめ—
.....川嶋なつみ

気になる論文コーナー

今後の特集予定

52巻 3号「位相物体の可視化・定量化と生体医療応用」

52巻 4号「分布型光ファイバーセンシング」

52巻 5号「円偏光の生成・検出・応用の進展」

52巻 6号「2022年日本の光学研究」

52巻 7号「熱輻射の制御とその応用の進展」

今回の特集は、「プロジェクターによって拡張される
実世界」でした。この編集後記を書いている12月、都
会にはさまざまなイルミネーションがあふれ、プロジェ
クションによる自宅の演出などもみられます。現在で
は、建築物や空間を光で彩る手法としてプロジェクショ
ンマッピングがよく知られており、すでに実空間でのイ
ベントなどに活用されています。一方で研究開発分野で
は、今回の特集で紹介したように、適応的な見かけ操作
や、動く物体を対象にしたもの、ウェアラブルシステム
と組み合わせたもの、高速なプロジェクションマッピン
グを用いるものや、複数台のプロジェクターによって色
彩や輝きを表現するもの、さらにはロボットを制御する
仕組みなど、プロジェクターによって実世界を拡張する
手法が次々と生み出されています。現実の物体がプロ
ジェクターによって動的に拡張され、われわれが住む物
理空間がますます情報化され、自由度が高くなっていく
未来がすぐそこまで来ていることがわかりいただけた
と思います。また、光学の要素技術を加えることでさら
なる発展が見込まれる分野だと思しますので、本記事の
読者の皆様の固有の技術がプロジェクション技術と結び
つくことで、より一層の展開が生まれることを楽しみに
しております。
(小泉, 寺川)

原著論文を募集しています

「光学」では、日本語の原著論文を募集しています。会員・非会員を問わず、自由に投稿できます。皆様の意
欲的なご投稿をお待ちしております。

また、上記に加え、特集テーマに関連のある原著論文も募集しています。この場合、採択となった論文はその
特集号に合わせて掲載できるよう、査読作業をより迅速化いたします。特集テーマ関連の投稿締切は、当該特集
号発行月の4か月前の10日です。特集号を明記のうえご投稿ください。

日本光学会ホームページ <http://myOSJ.or.jp/>

光 学 2023 ©

第52巻 第1号 <月刊>

2023年1月10日 発行

定価1,500円 (送料実費)

発行/ 一般社団法人 日本光学会

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-23-11

常光ビル 7F 有限会社学術新報社内

E-mail: info@myOSJ.or.jp

印刷/ 大昭和印刷株式会社

「光 学」編集委員会

山本 裕紹*	芦原 聡**	秋葉 教充	白井 文昭
江川麻里子	小関 泰之	小野 雅司	木村 隆志
金高 健二†	黒坂 剛孝	小泉 直也	斎藤 真司
齋藤 直洋	酒井 大輔	下垣 哲也	庄司 暁
杉田 篤史	鈴木 良政	瀬谷 安弘	田上 周路
田代 知範	玉田 洋介	張 開鋒	辻野 賢治†
寺川 光洋	中村 友哉	西館 泉	野崎 昭俊
日達 研一	藤村佳代子	水谷 康弘	水野 洋輔
森本 智英	山中 真仁		

*委員長 **副委員長 †光科学及び光技術調査委員長

編集局 新沢佐和美

制作/ 有限会社学術新報社

電話 03-3816-3991 Fax 03-3816-3992

E-mail: kogaku@academic-j.co.jp